

学会認定・ 自己血輸血看護師の 役割と活動

岩手県立中央病院 看護部
箱石 悦子

岩手県立中央病院



職員数:1,230名(平成29年5月1日現在)
医師:192名(研修医37名含)
看護師:613名
看護補助者:106名
病床数:685床 診療科:28診療科
新入院患者数:*44.4人(1日平均)
在院日数:*12.0日
病床利用率:*84.7%
(*平成28年度データ)

当院における 自己血輸血の実際①

- 当院の現状

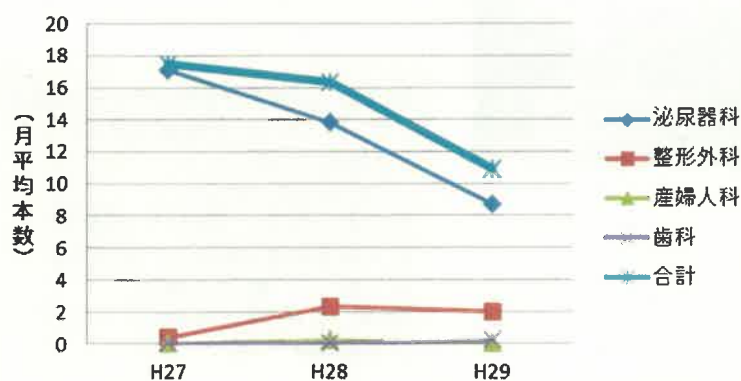
輸血部がなく、救急外来配属の看護師が内視鏡室と兼務している。

主に整形外科、泌尿器科からの依頼を受け自己血採血を行っている。

対象手術：根治的前立腺全摘除術
人工股関節全置換術など

当院における 自己血輸血の実際②

貯血本数の推移



自己血輸血看護師の役割

- ・ スタッフへの指導
- ・ ガイドラインに沿った自己血採血方法の検討
→従来は静脈路の確保と、採血を別ルートを行っていたが、自己血輸血学会のガイドラインに基づき、採血後必要量の輸液を投与する方法に変更した。変更後、トラブルは起きていない。
また、3交代で複数のスタッフが採血を行うため、育成のため勉強会を実施している。

当院における 自己血採血の実際③

- 各科外来で行うこと（説明→同意）
 - ・ 自己血採血の依頼
- 採取当日の流れ
 - ・ 患者のバイタルサイン、感染症の有無、当日の体調を確認し、担当看護師1名で自己血採血を行う。約1～1.5時間かかる。
 - ・ 急変時は、内視鏡室の協力を得て対応することとなっている。

当院における 自己血輸血の実際④

自己血輸血をされる方へ

※本院での自己血輸血は、手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すという方法で行われます。

【自己血輸血の目的】
手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すことで、手術中の出血による貧血を防ぐことができます。また、輸血による感染症やアレルギー反応のリスクを減らすことができます。

【自己血輸血のメリット】
自分の血液を使用するため、感染症やアレルギー反応のリスクが低いです。また、輸血による血液不足の問題もありません。

【自己血輸血の手続きについて】
手術前には血液検査を行い、自己血輸血が可能かどうかを確認します。手術当日は、手術前に自分の血液を採取し、手術中に自分の血液を戻すという方法で行われます。

※以上が自己血輸血の実際です。ご興味がある場合は、当院の自己血輸血センターまでお問い合わせください。

自己血輸血用採血の同意書

- 自己血輸血の目的と目的、その目的を達成するために、手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すことを行います。
- 自己血輸血の目的は、手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すことです。
- 自己血輸血の目的は、手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すことです。また、輸血による感染症やアレルギー反応のリスクを減らすことができます。
- 自己血輸血の目的は、手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すことです。また、輸血による血液不足の問題もありません。

同意書 氏名 _____

性別 氏名 _____

手術年月日 年 月 日

医師 氏名 _____

看護師 氏名 _____

当院における 自己血輸血の実際⑤

自己血輸血を受けた患者様方へ

※自己血輸血の実際

- 手術は予定通り行われます。自己血輸血は、手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すという方法で行われます。
- 手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すという方法で行われます。
- 手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すという方法で行われます。
- 手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すという方法で行われます。

【自己血輸血の実際】
手術中に自分の血液を採取し、手術後に自分の血液を戻すという方法で行われます。

【自己血輸血のメリット】
自分の血液を使用するため、感染症やアレルギー反応のリスクが低いです。また、輸血による血液不足の問題もありません。

【自己血輸血の手続きについて】
手術前には血液検査を行い、自己血輸血が可能かどうかを確認します。手術当日は、手術前に自分の血液を採取し、手術中に自分の血液を戻すという方法で行われます。

※以上が自己血輸血の実際です。ご興味がある場合は、当院の自己血輸血センターまでお問い合わせください。

当院における
自己血輸血の実際⑥

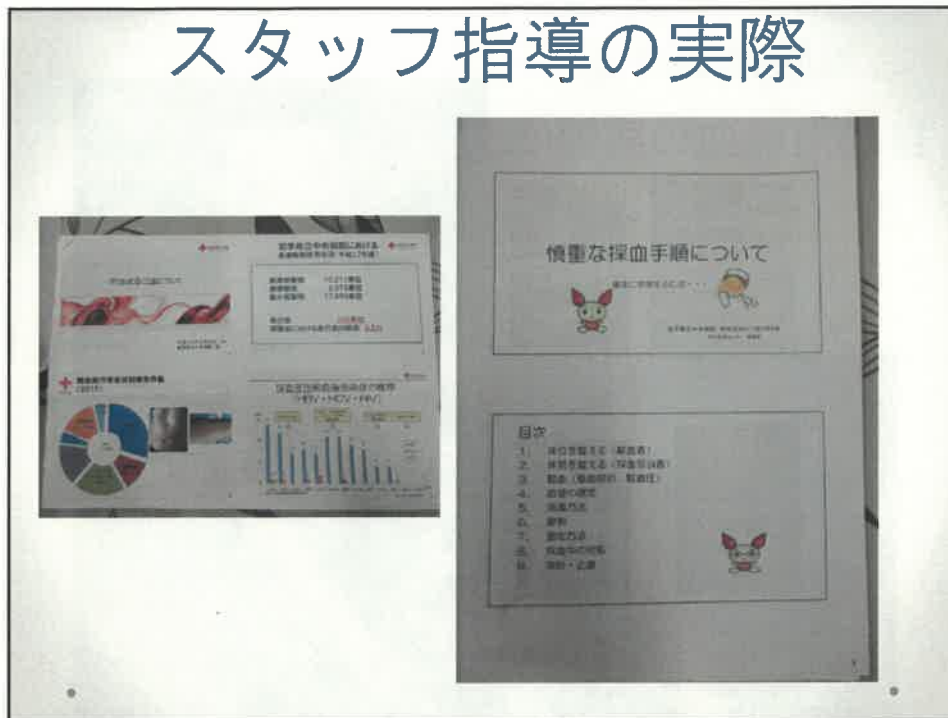


現在の取り組み

- I&Aに基づいた環境整備、
マニュアル整備の内容、急変時
の対応

昨年I&Aの取得に基づき、環境
整備とマニュアルの見直しを
行った。

スタッフ指導の実際



末梢血幹細胞採取 について

- 血液内科の依頼を受け、末梢血幹細胞採取を行っている。
 - 対象疾患はびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫、多発骨髄腫などであり、月1～2件の採取となっている。
- CEスタッフが常駐しているというメリットから透析室を利用し、末梢血幹細胞採取を行っている。血液内科医師、血液内科病棟、検査科、CEセンター、透析室スタッフと協力し、患者の安全・安楽に努めている。

当院における 末梢血幹細胞採取の実際①

- ①血液内科医師から依頼を受ける
- ②検査科、CEセンター、透析室へ連絡、日程の確認
- ③チェックリストを用い、当日までに物品準備
- ④前日（もしくは直近の平日）に患者前訪問

当院における 末梢血幹細胞採取の実際②

- ⑤当日：
 - ・朝に医師より採取実施の指示を確認し、検査科、CEセンターへ連絡。
 - ・透析室で物品など患者の受け入れ準備を行い、患者状態をアセスメントする。
 - ・入院病棟より患者を引き継ぎ、採取を行う。
- ⑥終了：
 - ・患者を入院病棟へ引き継ぎ、後片付け。
 - ・翌日も採取の予定がある場合は準備を行う。

当院における 末梢血幹細胞採取の実際③



当院における 末梢血幹細胞採取の実際④

末梢血幹細胞採取を
受けられる方へ

【 末梢血幹細胞採取時の注意事項（チェックリスト） 】

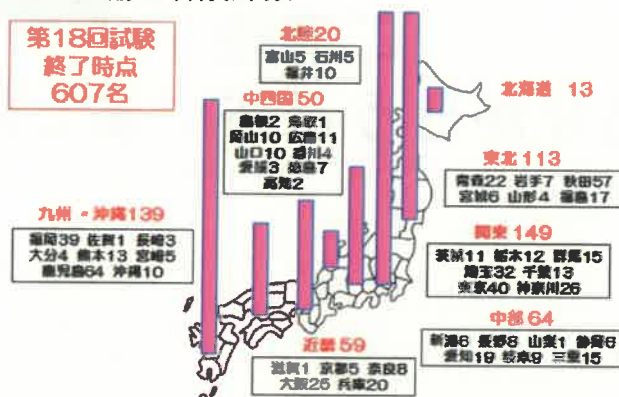
項目	確認事項
採血前	採血前には採血部位を清潔にし、消毒を行います。
採血中	採血中は採血部位の腫れや痛みを注意観察し、必要に応じて処置を行います。
採血後	採血後は採血部位を清潔にし、消毒を行います。また、採血部位の腫れや痛みを注意観察し、必要に応じて処置を行います。

※採血部位の腫れや痛みは、採血後数日程度続くことがあります。

※採血部位の腫れや痛みは、採血後数日程度続くことがあります。

自己血輸血看護師の活動

- 全国の人数
地域別自己血輸血看護師数



* 自己血輸血学会ホームページより

今後の課題

- 自己血輸血看護師の育成
- 院内の活動の拡大

現在、自己血輸血看護師は1名であり院内の活動としては採血スタッフの技術向上のため、部署での研修を行うだけとなっている。

今後は資格取得を推進し、院内での自己血の理解を深めていきたい。

